

# 小学校の配置の適正化に関する検証報告書 (概要版)

大阪市教育委員会  
令和8年6月



## I 検証の目的

本市では、児童生徒が集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、一定の集団規模が確保された良好な教育環境を整えるため、学校配置の適正化に取り組んでいる。

これまでも、統合半年後に実施したアンケートの結果を取りまとめるなどし、学校配置の適正化の効果等について確認しているが、今後の取組がより円滑なものとなるよう、令和2年の条例改正以降、学校再編を実施した小学校を中心に、改めてこれまでの取組を振り返り、教育環境の改善状況や課題等について整理・検証する。

## II 検証の視点

一般的に小規模校は、学校としてまとまりやすい、児童生徒一人ひとりの生活実態が把握しやすいといった利点がある一方で、下表に示すような教育環境に関する課題が見られる。

| 児童・生徒                                                                                                       | 教 員                                                                                                                            | 学校・学級運営                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・人間関係が狭くなり固定化しやすい</li><li>・友だちを作ったり、もめても仲直りしたりする力をつける経験が少ない</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・授業等の準備や保護者対応を1人で行わざるをえない</li><li>・現場でスキルアップする経験ができない</li><li>・校務や行事にかかわる負担が重い</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・運動会でクラス対抗の競技ができないなど、教育活動に制約が出る</li><li>・授業の中で、様々な意見が出にくく意見の違いを話し合う展開になりにくい</li></ul> |

学校の再編によりこれらの課題等も含め教育環境の改善が図られたかといった視点で、統合半年後に実施したアンケートに加え

- ▶ 統合校の管理職及び教員への聞き取り調査
- ▶ 「全国学力・学習状況調査」などのデータも活用して検証を行った。

## 検証1 学校（学級）規模・学級数に関すること

### ○ 適正な規模が確保されたか

全学年でクラス替えが可能に（まっば小学校を除く）

学級数の  
平均

統合前  
6.0学級



統合後  
13.3学級

## 検証2 学校生活・教育活動に関すること

### ○ 人間関係は広がったか、 社会性やコミュニケーション能力は向上したか

人間関係の固定化がある程度解消され、  
交友関係が広がった様子が伺えた

| 主な肯定的回答                                                      | 主な否定的回答             |
|--------------------------------------------------------------|---------------------|
| <b>【教室での様子】</b><br>・新しい友だちができた（81.6%）<br>・学校がにぎやかになった（51.7%） | ・意見がまとまらなくなった（9.8%） |
| <b>【休み時間の様子】</b><br>・遊ぶ仲間が増えた（67.7%）<br>・遊びの種類が増えた（33.7%）    | ・遊ぶことが少なくなった（9.5%）  |

統合半年後アンケート 今の学校生活について（児童）より

統合前後によりきめ細やかな支援や対応を行うことができるよう、今後も教員等の体制の増強に取り組む

違い（オッズ比）の推定はロジスティック回帰分析（単回帰分析）による。

オッズ比は値が大きいほど、統合後に肯定的回答をした児童の割合が多いことを示す。

- ☐ **+** 下限が1より大きい場合、統合後の児童の方が有意に肯定的回答割合が高い。  
☐ **-** 上限が1より小さいと、統合前の児童の方が有意に肯定的回答割合が高い。

### ○ 男女比の偏りが少なくなったか

男女比の偏りが一定改善

本市平均（割合）  
との最大差

統合前  
34.2ポイント



統合後  
15.9ポイント

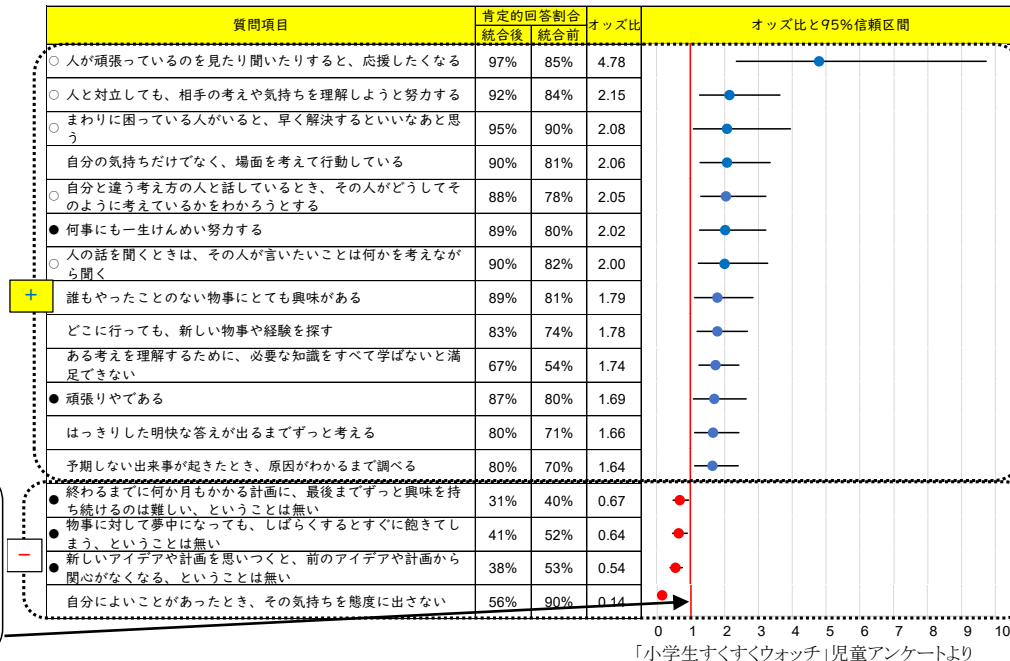
### ○ 非認知能力面での変化はあったか

「人と関わる力」に関する質問（○マーク）

⇒統合後の児童の肯定的回答割合が統合前よりも統計的に高い

「目標に向かって頑張る力（ぶれない心）」に関する質問（●マーク）

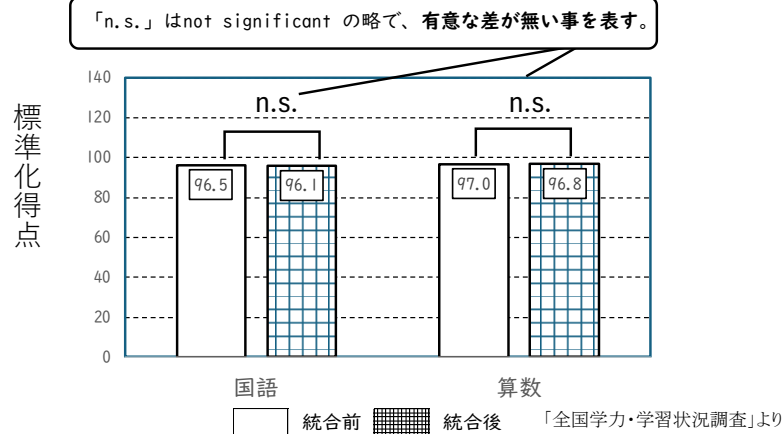
⇒統合後の児童の肯定的回答割合が統合前よりも統計的に低い



## 検証2 学校生活・教育活動に関すること（続き）

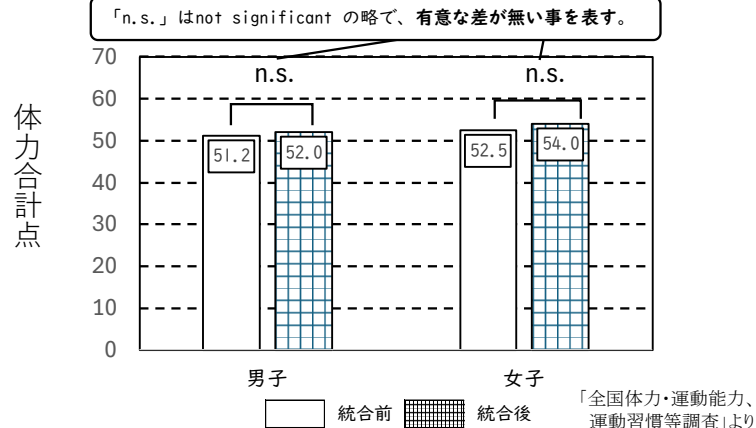
### ○ 学力・学習面での変化はあったか

標準化得点はわずかに下がったものの、  
統計的に有意な差は見られなかった



### ○ 体力面での変化はあったか

体力合計点はわずかに上がったものの、  
統計的に有意な差は見られなかった



## 検証3 通学路の安全確保に関すること

### ○ 事前の通学路の安全対策の取組は適切か

開校以降、通学時の重大事故は発生していない  
一方で、通学路の安全に関する意見が寄せられている

通学路の安全対策の取組

- ・ 保護者・地域、警察、建設局と連携し、通学路や見守り活動等の検討
- ・ グリーンライン(歩道と車道の境を示すライン)の設置・通学路の明示など

通学路の安全対策を継続し、寄せられた意見や課題を踏まえて、必要な改善に取り組む

## 検証4 環境の変化への支援等に関すること

### ○ 学校の統合により生まれる財源を活用した支援等の取組は適切か

聞き取り調査を行った全ての統合校から、授業の質の向上や児童の交流促進など、教員等の増配置は非常に有効との評価が寄せられた

支援等の取組

- ・ 教員(本務、講師)、スクールカウンセラー、  
スクールサポートスタッフの増配置 など

## 検証5 教職員数等に関すること

- バランスのとれた人員の配置となったか、男女比の偏りは少なくなったか

年齢構成：20代がいらないような状況が解消し、バランスの取れた人員配置に  
男 女 比：統合前後で大きな変化はない（概ね本市の平均比率）

（年齢構成）  
本市平均（割合）  
との最大差

統合前  
25.3ポイント



統合後  
13.6ポイント

## 検証6 指導内容等に関すること

- 教員の指導技術の向上につながる研修機会や指導技術の相互伝達の機会が増えたか

校内研究授業の実施回数は、2校において大幅に増加

- ・校内研究授業の実施予定回数

| 学校名              | 統合前年度       |            |             |           | 令和7年度<br>実施予定回数 |
|------------------|-------------|------------|-------------|-----------|-----------------|
|                  | 上段：学校名      |            | 下段：実施予定回数   |           |                 |
| まつば小学校           | 梅南津守小<br>11 | 松之宮小<br>6  |             |           | 22              |
| 大池小学校            | 中川小<br>6    | 御幸森小<br>6  |             |           | 3※1             |
| 生野未来学園<br>(前期課程) | 林寺小<br>8    | 生野小<br>15  | 舍利寺小※2<br>6 | 西生野小<br>9 | 9               |
| 田島南小学校           | 田島小<br>15   | 生野南小<br>12 |             |           | 29              |

※1 令和7年度から全学年対象の校内研究授業を6回から3回に変更し、各学年等での校内実践研究会や研修会を重点的に実施予定

※2 令和3年度に大池小学校と生野未来学園にそれぞれ統合。調査対象年度の関係上、生野未来学園に記載

校内研究授業の実施状況（「学校の現状調査シート」より）

## 検証7 組織運営に関すること

- 校務分掌の負担は軽減したか

一部の業務では負担が増加したものの、全体として校務分掌の負担が軽減されたことが確認できた

- ・小規模校は校務分掌の負担が大きかったので、統合後は負担が減り、児童に向き合える時間が増えた。
- ・校区が広がったことで、家庭訪問などの負担が増加した。

教員の評価（統合校の教員への聞き取り調査より）

- 学校運営は円滑に移行できたか

統合後半年後アンケートでは、各校の方針の違いや教職員間の交流・情報共有等に課題が見られたが、統合校の管理職への聞き取り調査では、管理職による適切なマネジメントもあり、徐々に学校運営が安定したことが確認できた

- ・特に課題は生じていない（40％）
- ・課題が生じている（50％）

（主な理由：各校の方針、文化の違いや  
教職員間の交流・情報共有に関すること）

教職員の評価（統合半年後アンケート「統合による新たな課題について」より）

→ 今後は、早い時期に全教職員がしっかりと情報共有等ができるよう、マネジメントを担う管理職の支援を強化する

その他

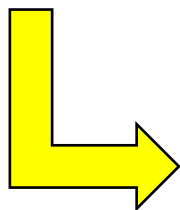
学校とPTA・地域との関係など

統合当時の管理職への聞き取り調査では、PTA活動が活性化したことや統合後も引き続き各地域で自主的な活動が展開されていること、児童や保護者にとっては参加できる場が増加したこと等が確認できた

### Ⅲ おわりに

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 児童  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ より多様な人間関係の構築や社会性、コミュニケーション能力の向上等、集団規模を確保することで <u>期待された変容が一定確認できた</u>。</li><li>・ 自主性や良い意味での他者を意識した向上心の高まりといった変容も一定確認できた。</li></ul>                                                                                                                                                             |
| 教職員 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 年齢層のバランスや人数が改善されたことにより、指導内容や教材研究の多様化、互いの指導技術の伝達機会の増加等に加え、校務分掌の負担軽減が図られ、<u>学校運営の安定化につながっていることが確認できた</u>。</li><li>・ 一方で、特に統合初期には、児童の心理的な不安や教職員間の方針調整等の課題も認められたが、各学校において、管理職のマネジメントのもと、教職員間の連携・協働、統合により生まれる財源を活用した取組の実施、保護者や地域の方々のご理解・ご協力等により、徐々に課題は解消に向かい、教育環境の継続的な充実につながっていった様子が伺えた。</li></ul> |
| その他 | 通学路の安全確保については、関係機関・地域と連携して対策を進め、 <u>安全対策の充実</u> を図り、環境の変化への支援等については、教員やスクールカウンセラー等の加配による <u>授業の質の向上</u> や <u>児童の交流促進</u> など、 <u>一定の効果が確認できた</u> 。                                                                                                                                                                                     |

※本検証は限られたデータと調査に基づくものであることに加え、児童の変化には様々な要因が関係することから、学校の統合による全ての影響を断定するものではない。



学校の現状や関係者の多様な意見を十分に踏まえ、継続的な検証と改善に努め、今後も、子どもたちの教育環境の改善を第一に、関係者の理解と協力を得ながら、課題への対応と取組を推進する。